

<<<<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>><<注意報>>>>

30 農病防第 10059 号
平成 30 年 5 月 1 日

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公 印 省 略)

平成 30 年度病害虫発生予察注意報第 1 号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成 30 年度 病害虫発生予察注意報 第 1 号

1. 病害虫名 : モモせん孔細菌病
2. 対象作物 : モモ
3. 発生が予想される地域 : **県下全域**
4. 発生程度 : **多**
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 4 月下旬に実施した発病調査では、発生圃場率は 77.8% (平年 : 43.9%)、発病葉率は 5.1% (平年 : 2.3%) であり、圃場率、発病葉率ともに多かった (第 1 表)。
 - 2) 向こう 1 か月の気象は降水量がほぼ平年並の予報であるが、今後、風を伴う降雨が続くと発病が増加するおそれがある。

第 1 表 モモにおけるせん孔細菌病の葉の発生状況

年次	発生圃場率 (%)				
	4月下旬	5月中旬	6月中旬	7月中旬	8月下旬
2008	27.8	83.3	88.9	77.8	88.9
2009	38.9	77.8	83.3	88.9	100
2010	27.8	100	88.9	83.3	66.7
2011	33.3	77.8	94.4	100	100
2012	61.1	72.2	88.9	83.3	94.4
2013	38.9	83.3	88.9	94.4	44.4
2014	88.9	100	100	100	100
2015	50.0	88.9	94.4	94.4	100
2016	55.6	94.4	100	100	100
2017	16.7	88.9	83.3	72.2	100
2018	77.8				
平年値	43.9	86.7	91.1	89.4	89.4

年次	発病葉率 (%)				
	4月下旬	5月中旬	6月中旬	7月中旬	8月下旬
2008	1.6	5.2	10.9	12.1	16.9
2009	2.6	9.3	13.9	18.4	34.7
2010	1.8	13.9	9.9	9.3	19.2
2011	1.3	9.7	7.1	8.9	18.2
2012	1.9	5.7	3.1	7.5	12.4
2013	6.7	3.4	2.0	7.1	3.6
2014	2.8	8.3	8.5	8.4	28.9
2015	2.9	6.0	7.1	11.8	64.8
2016	1.3	4.2	15.1	30.3	36.4
2017	0.5	2.7	5.3	7.1	16.0
2018	5.1				
平年値	2.3	6.8	8.3	12.1	25.1

6. 防除実施上の留意点

- 1) 薬剤防除を実施していない園では早急に防除する。
- 2) ストレプトマイシン剤（アタッキン水和剤含む）を使用する場合は、収穫前日数に注意する。
- 3) 例年多発する圃場では果実への感染を防止するため、早めに袋かけを行う。
- 4) 発病枝は伝染源となるので、見つけ次第除去して適正に処分する。
- 5) 病原菌は葉や果実の自然の開口部（気孔、水孔等）や傷口から侵入するので、風当たりの強い園地では防風ネット等の防風対策を施すとともに、コスカシバ、キクイムシ、モモハモグリガ等の害虫防除を徹底し樹勢低下を防止する。
- 6) 同一病原菌によって発生するスモモの黒斑病も多発生が予想されるので注意する。

第2表 モモせん孔細菌病の防除薬剤（香川県主要農作物病害虫・雑草防除指針より抜粋）

系統名	FRACコード	成分名	薬剤名	希釈倍数	使用時期／回数	成分を含む総使用回数
その他の合成殺菌剤	M9	ジチアノン	デランフロアブル	600～1,000倍	7／4	4
抗生物質殺菌剤	26	バリダマイシン	バリダシン液剤5	500倍	7／4	4
	41	オキシテトラサイクリン	マイコシールド	1,500～3,000倍	21／5	5
	25	ストレプトマイシン	アグレプト液剤	1,000～2,000倍	60／2	2
	25	ストレプトマイシン	アグレプト水和剤	1,000～2,000倍	60／2	2
	25	ストレプトマイシン	ストマイ液剤20	1,000～2,000倍	60／2	2
	25	ストレプトマイシン	マイシン20水和剤	1,000～2,000倍	60／2	2
混合剤	25	ストレプトマイシン	アタッキン水和剤	1,000倍	60／2	ストレプトマイシン:2 チオファネートメチル: 生育期の散布は6
	1	チオファネートメチル				

FRACコード：FRAC（殺菌剤耐性菌対策委員会 <https://www.jfrac.com/>）による農薬有効成分の作用機構の分類。

*：同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため連用を避ける。



写真1 葉の症状

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jpnp.ne.jp/kagawa/>